

(仮称)篠原地区公園整備事業の進捗状況について

令和5年10月

都市計画課 緑化センター活用推進係

1 (仮称)篠原地区公園の整備について

市では、山梨県緑化センター（平成26年3月廃止）の存続と機能・役割の継承を求める多くの市民等の要望も考慮し、施設跡地及び隣接民地を含む約2.5haを取得し、都市公園「(仮称)篠原地区公園」として整備する。

公園の整備にあたり、令和2年度に活用アイデア募集を実施し1,680通、4,250件もの提案が寄せられるなど市民の関心が高いことから、令和3年度において、市民ワークショップ及び市民フォーラムを通じ市民合意形成を図る中で(仮称)篠原地区公園整備基本計画を策定し、本公園整備の基本コンセプトを「次世代へつなぐ創造の森」と定めた。

令和4年度には、公園イメージを具体化する設計基礎調査並びに、公民連携による運営管理手法について検討するサウンディング調査を実施した。

2 設計基礎調査及びサウンディング（令和4年度事業）

(1) 設計基礎調査の内容

令和3年度に策定した整備基本計画の基本コンセプト等を踏まえ、市で示した本公園整備の配置イメージ（案）をもとに、実現に向けた基本ゾーニング及び空間活用コンセプトの検討と諸課題等を整理した。

(2) サウンディング型市場調査の内容

(仮称)篠原地区公園の設計業務や整備後の運営管理に向けて「施設の維持管理方法」「公園における事業展開」「カフェ等における公民連携（パークPFI等）の可能性」など、対話形式により、民間事業者及び市民・団体のアイデアや提案を把握するため、サウンディング型市場調査を次のとおり実施した。

- 実施期間 令和4年11月21日（月）～令和5年1月25日（水）
- 申込者 30者（民間事業者15者、市民・団体15者）
- 結果概要 【別紙1】のとおり

(3) 設計基礎調査及びサウンディング型市場調査結果の考察に基づく配置イメージ (案)

民間事業者、市民・団体への調査をもとに、整備基本計画からの課題や施設機能の検証を行った。調査で得られた提案・意見等を反映させ、今回の設計基礎調査に採り込むとともに、今後、設計段階においてもサウンディングを継続する。

①公園全体について【別紙2】

●カフェ・レストランを北側エリアに配置

- ・敷地全体への賑わいと子どもを遊ばせながら寛げるという点で、カフェは北側エリアに配置するのが好ましい。

●屋根付き広場について

- ・エリアに対してかなり大きな印象もあるが、ニーズも多いことから、カフェやアスレチック、建物や駐車場と一体的に作られていた方が、雨の日でも活用されるのではないか。

●空中回廊の計画変更

- ・市道を跨ぐ歩道橋のような形は、かなりの高架になり勾配(スロープ)も相当長くなるほか、高コストが想定されることから、実現は難しい。

●交差点側への広場空間

- ・複合施設の近いところで、乗降者できるようにしたほうがいい。
- ・公園と建築が分断しないような計画が望ましい。
- ・交差点側へも小さな広場空間をつくり、道路側からも賑わいや奥の公園の雰囲気を感じられるようにしたい。

②子育て支援複合施設について【別紙3】

●屋内遊戯スペースの面積について

- ・アフターコロナを見据え密にならない空間づくりが必要と考えるが、人口規模や利用想定者数のほか、運営形態も含め詳細検討が必要。
- ・全天候型の屋外遊戯スペースの需要は非常に高く、市の目玉となる。

※県内類似施設の建築床面積

「おしろらんど(甲府市) : 594 m²」

「にらちび(韮崎市) : 541 m²(子育てセンター部分)」

「中央市子育て支援センター : 523 m²」

●児童書コーナーについての考え方

- ・絵本などに特化し、図書館として整備するものではなく、子育て支援複合施設の1コーナーとして考える。

●子育て支援複合施設諸室の検討について

- ・想定する機能によっては、配置運用計画により諸室の併用などが可能。
- ・継続的なサウンディングを通じ、機能や用途等により、諸室における規模等を検討する必要がある。

想定する事業や機能をもとに、必要となる整備面積を次のとおり試算する。

項 目	内 容	広 さ
託児スペース	一時預かり事業	50 m ²
子育てひろば	地域子育て支援拠点事業	200 m ²
多目的室（小）	子育て（障がい児含む）に関する相談 等	30 m ² (15 m ² × 2)
多目的室（中）	子育て関連事業	75 m ²
多目的室（大） ・ 体験学習室	木工体験、緑の学習	150～200 m ²
ボランティア等控室	子育てボランティア育成	50 m ²
屋内遊戯スペース	大型室内遊具、デジタル遊具など ※インクルーシブ機能を含む	750～1,000 m ²
児童書コーナー	読書、読み聞かせスペース	300～500 m ²
交流・休憩スペース （オープンスペース）	各種イベント、飲食、ギャラリー など	200 m ²
多目的ホール	多目的室（大）と統合へ	
事務室		60 m ²
その他（共用部分ほか）	トイレ、倉庫、ロッカー、廊下、階段、 エレベーター など	450～635 m ²
合 計		2,315～3,000 m ²

3 (仮称)カーボンニュートラルパークへの取り組み

甲斐市は、2050年二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言し、その実現に向けた取り組みを推進している。また、本年4月、脱炭素先行地域に採択され、竜王駅～市役所～本公園を含む地域について先行エリアの1つに定めている。

本公園は、サウンディング型市場調査により、民間事業者や市民・団体からの要望も多いことから、旧山梨県緑化センター跡地の既存樹木をCO2吸収源として活用するほか、建築物のZEB化（ZEB-Ready以上の省エネ・創エネを目指す）や、公園部においても脱炭素化を図る（仮称）カーボンニュートラルパークとしての整備に取り組むものとする。

4 今後の取り組みについて

令和5年度	<ul style="list-style-type: none">● 公園及び建築物の設計 民間事業者へのサウンディングを実施し、運営手法について検討を進めるとともに、事業者のノウハウを設計にフィードバック。● 工事着手（準備工）● 市道緑化センター八幡前線の設計及び道路改良工事着手● 県道甲斐中央線道路整備（県事業）
令和6年度以降	<ul style="list-style-type: none">● 園路広場・建築物本体工事● 供用開始（未定）